



fib 大阪コンGRESS 2002 の開催準備を振り返って

山崎 淳*

1. 開催までの経緯

fib 大阪コンGRESS 2002 の開催まで、あと1ヵ月を残すだけとなりました。10月14日の開会式から18日の閉会式までの5日間、大阪国際会議場は世界各地から参加されたコンクリート技術者や研究者の熱気にあふれるものと期待しております。

開催を直前に控え、これまでの開催準備の経緯を振り返った年表を表-1に示します。組織委員会の池田委員長が、1996年のFIP ロンドンシンポジウムの際に開かれたFIP理

事会において、日本での開催を提案して以来、6年越しの準備期間を要しました。とくに、2000年11月に第1回の組織委員会と技術委員会が開催された以降、両委員会を中心に、企画行事、技術展示、学術、広報の各部会が組織され、本格的な準備活動を開始致しました。現在は最終的なまとめの段階に入っておりますが、ここまで滞りなく準備が進んでこれましたのは、各部会に所属する担当委員の方々による献身的な活動の成果によるものです。なお、各部会の活動内容の一端については、前号までの記事に報告されておりますので、是非ご覧下さい。

表-1 現在までの開催準備経緯

時期	内容
1996.9	FIP ロンドンシンポジウムにて、fib の第1回コンGRESS を日本で開催したい旨を提案、了承される
1997.11	準備委員会発足
1998.5	FIP アムステルダムコンGRESS にて、Preliminary Announcement (会議予告案内) を配付
1998.5	CEB (欧州国際コンクリート委員会) と FIP (国際プレストレストコンクリート連合) が合併して fib が発足
2000.10	fib オランダシンポジウムにて、First Circular & Call for Papers (会議1次案内) を配付
2000.11	第1回組織委員会と実行委員会を開催、プレストレストコンクリート技術協会(JPCEA)と日本コンクリート工学協会(JCI)の共催、プレストレスト・コンクリート建設業協会とセメント協会の後援のもと、本格的な準備活動を開始
2001.4	ホームページを開設、論文およびポスター発表の募集を開始
2001.5	アブストラクトの締切
2001.10	fib ベルリンシンポジウムにて、Second Circular & Call for Registration (会議2次案内) を配付、プロモーションビデオを用いて招待演説を実施
2001.10	技術展示出展募集を締切。現時点、76の団体と企業から126ブースの応募
2002.1	ホームページによる会議参加登録受付開始
2002.2	論文提出期限
2002.6	Final Invitation & Call for Registration (会議最終案内) を配付。Plenary, Primary, および Keynote 講演者とタイトルを明示するとともに、テクニカルツアーの詳細な行程を紹介
2002.7	論文最終原稿の締切。現時点、Plenary, Primary, および、Keynote 講演として40編、一般発表として652編(内、138編がポスターセッション)

2. コンGRESSの内容

6月に発行されたFinal Invitation & Call for Registration (会議最終案内) から最新の情報を紹介します。なお、本文



*Jun YAMAZAKI

本協会会長
fib 2002 実行委員長
日本大学 理工学部土木工学科 教授

最後にFinal Invitation & Call for Registration の全文を掲載致しました。

(1) 会議およびセッションスケジュール

セッションは10月14日から18日の5日間となりますが、13日夕刻のウェルカムレセプション、15日午後からのテクニカルツアー、17日夕刻のバンケット、さらに19日から21日にはポストコンGRESSツアーが用意されておりますので、是非ご参加ください。

14日から18日の午前中には、Main Hall にて、Plenary (総合講演) および Primary (主要講演)、ナショナルレポート、fib 委員会報告が行われます。

また、15種類に分類された各テクニカルセッションでは、一般発表のほかに、それぞれの分野における先進の研究者、技術者による Keynote (基調講演) が行われます。

(2) 技術展示

現時点までに、76の団体と企業から126ブースの応募が集まっております。コンクリート構造に関する材料・設計・製造・施工等の国内外の最新技術が一堂に会しており、官側からも大阪市、大阪府、日本道路公団関西支社、本州四国連絡橋公団、国土交通省近畿地方整備局、阪神高速道路公団、首都高速道路公団が参加致します。

3. 講演者のご紹介

プレナリー（総合講演）・プライマリー（主要講演）および、キーノート（基調講演）の各セッションにおいて、世界中から非常にご高名な方々が講演して下さいます。ファイナルインビテーションの中で、これらの方々の講演題目が記載されておりますが、ここではとくにプレナリーとプライマリーで講演して下さいの方々の簡単な紹介をいたしたいと思います。

プレナリー 1 (総合講演 1) 10月14日(月)10:30 - 12:30

Juko Ito (日本:伊藤重剛)

熊本大学大学院自然科学研究科 助教授

ギリシャ等の古代建築の権威で毎年ギリシャにて発掘調査を実施、昨年のPCシンポジウムで地中海古代建築に関する特別講演をお願いした。

Michel Virlogeux (フランス)

fib 前会長

世界最大規模の複合斜張橋 Normandy 橋における SETRA の設計・施工技術総責任者

Charles W. Dolan (アメリカ)

Wyoming 大学 土木建築工学科主任教授

ACI 技術委員会委員長であり、新交通システムの分野でも活躍

Motoko Ishii (日本:石井幹子)

Motoko Ishii Lighting Design (石井幹子デザイン事務所) の主宰者

日本の照明デザインの先駆者として国内外で活躍、代表作に東京タワー、横浜ベイブリッジ、東京湾レインボーブリッジ、明石海峡大橋など

プライマリー 1 (主要講演 1) 10月15日(火)9:00 - 10:30

Leonardo F. Troyano (スペイン)

スペインのコンサルタント Carlos Fernandez Casado S.L. office の創始者

Luna 橋や Rio Ebro 橋の設計など多数の橋梁に携わる。

Jim G. Forbes (オーストラリア)

Scott Wilson Irwin Johnston Pty Ltd. の役員, fib 副会長

1995年のプリスペイン・シンポジウムをオーストラリアの代表として成功に導いた。

多くの日本人留学生をホームステイさせるなど大変な親日家でもある。

Joost Walraven (オランダ)

Delft 工科大学 土木工学科 教授, fib 会長

コンクリート構造のスペシャリストで、近年は自己充填コ

ンクリートの実用化や高性能繊維補強コンクリートの開発など幅広い分野で活躍

プライマリー 2 (主要講演 2) 10月15日(火)11:00 - 12:30

Robert Park (ニュージーランド)

Canterbury 大学 土木工学科 名誉教授

耐震工学の権威

Hiroshi Naito (日本:内藤廣)

東京大学大学院 工学系研究科社会基盤工学専攻教授

内藤廣建築設計事務所の主宰者

Miguel A. Astiz (スペイン)

Carlos Fernandez Casado S.L. office の主任技術者であり、マドリッド大学の教授

Luna 橋はじめ、多数の橋梁に携わり、最近ではジブラルタル海峡大橋の概略設計に従事

プレナリー 2 (総合講演 2) 10月18日(金)9:00 - 11:00

Tsutomu Kadotani (日本:角谷務)

日本道路公団 関西支社 第二建設部 部長

日本道路公団の先駆的 PC 技術の推進者

Catherine E. French (アメリカ)

Minnesota 大学 土木工学科 教授

耐震、診断・モニタリング、PC 構造の研究で活躍

Werner Sobek (ドイツ)

Werner Sobek Ingenieure GmbH の代表

1995年、シュツットガルト工科大学の教授に就任。フライ・オットー教授の後継者として膜構造研究所長ならびに土木中央研究所長となる。2001年、イェルグ・シュライヒ教授退官後、軽量構造物の設計・施工研究所長に就任。ガラスとケーブルを用いた建築構造物の第一人者としてベルリンのソニーセンタービルをはじめ数々の斬新な建築物の設計に従事。

Jiri Strasky (チェコ)

Brno 工科大学土木工学科 教授, 設計コンサルタント Strasky, Husty and Partnes の主宰者

著名な橋梁設計家であり、代表作に Wisconsin Avenue 高架橋、Redding の吊り床版橋、PC 斜張橋の Elbe River 橋、PC 吊橋の Vranov Lake 橋など

4. おわりに

CEB (欧州国際コンクリート委員会) と FIP (国際プレストレストコンクリート連合) が合併し、fib が発足して初めてのコンgresを日本で開催できることを誇りに感じるとともに、これまでの準備に関わられた各委員の方々のご努力に敬意を表します。

fib 大阪コンgres 2002 のテーマは、「21世紀のコンクリート構造 (Concrete Structures in the 21st Century)」です。本誌を読まれている PC 技術協会会員の皆様が本大会に参加され、力を合わせて新世紀のコンクリートの建設への扉を開いていただければ幸いです。

多くの方々のご参加を心からお待ちしております。

【2002年8月8日受付】